

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 46 号

平成15年9月15日発行

編集者 内藤 文隆
発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)
事務局 〒246-0031神奈川県横浜
市瀬谷区瀬谷5-22-1
TEL フリーダイヤル
0120-873135
振替口座 みずほ銀行
丸の内支店
008-1182388

総会報告 P.2~P.3

三陸キャンパス緊急報告 P.4

大学・三水会懇談会報告 P.5

北海道地区親睦会 P.6

16期OB会報告・体育祭報告 P.7

「見たい・知りたい・話したい」 P.8



三陸キャンパス



水産食品化学・水圏生態学
実習風景



三陸研修所

岩手県大船渡市三陸町越喜来字明神道17
TEL. 0192-44-2105

『平成十五年度 三水会定期総会報告』

平成十五年定期総会が五月十八日(日)午前十一時より本学白金校舎三号館八〇二会議室で開催されました。

理事・代議員四十五人が出席(内委任状十七名)で総会は成立した。議事に柳沢明美氏(7期増殖)・議事録署名人に田村治氏(2期増殖)・田代茂年(2期増殖)を選出し議事に入り上程された前年度事業報告・同収支決算・平成十五年事業計画案・同収支予算案並びに第九期代議員・役員の選任すべて原案通り賛成多数で可決されました。総会において承認されました昨年度の決算・本年度の事業計画・予算・代議員四十九名(内、役員二十名)・監事二名は次の通りです。

*役員紹介

氏名(学科・卒業期)
出身研究室

一、会長

長谷川一敏(増殖 三期)



水族病理学
「三水会」は三陸の水産学部を学舎にした人達の親睦と交流の場、全国にこの輪を広げて行きます。

二、副会長

内藤 文隆(増殖 八期)



魚類生理学
今回、副会長をさせて頂くことになりました。微力ながらお役に立ちたいと思います。

西尾 徹(食品 十四期)



水産生物化学
今年の目玉は陸での講演会。ご一緒に久しぶりの『漁火祭』を楽しみましょう！お待ちしております。それにしても三水会出世早すぎるって…！

三、理事

長屋 信博(増殖 一期)



魚類生理学
長谷川会長の下、全学同窓会副会長として三水会と全学同窓会、大学との橋渡しの役割を果たしていければと思います。

齊藤 勤(食品 三期)



水産利用学
今年、三陸の講演会に注力し貢献できるよう努力します。



水族病理学
卒業生が三陸での仲間たちを忘れないでいるように同窓会を通して手助けして行きたい。

伊藤 知尋(食品 四期)



水産利用学
卒業生がいるかぎり、水産学部は不滅です。三年間ですがよろしくお願ひします。

高橋 明義(食品 五期)



水産利用学
第二の故郷の為に。卒業生の三水会・水産学部への帰属意識を高めたい。

水野 幸司(食品 五期)



水産食品化学
前へ！

川添 一郎(食品 六期)



水産利用学
同級生、在校生のお役に立てればと思います。

堀内 岳郎(食品 六期)



水産食品化学
会員の利益代表として任期満了まで努力します。

黒澤 明(増殖 十期)



水産微生物学
三陸水産永遠ナリ！

中野 清隆(増殖 十期)



魚類生理学
本期より役員を申し受けました、よろしくお願ひ致します。

石川 慶一(食品 十一期)



水産微生物学
母校の為、そして三水会の為、がんばります。宜しくお願ひ致します。

楠本 正毅(増殖 十六期)



水族病理学
何かお役にたてば！と考えて行動していきたいです。

小林 博子(増殖 十六期)



水族病理学
理事になり、ふと気がつけば十年目。今期は理事会出席率アップが目標です。

磯山 直彦(増殖 十六期)



水族病理学
若輩者ですが、役員として力を尽くす所存です。

田中 和義(増殖 十七期)



基礎生産学
若輩者ですが、皆様のお役に立てるようがんばります。

松下 隆広(食品 十九期)



水産微生物学
同窓生の為に力になればと考えております。宜しくおねがいします。

高坂 友和(食品 二十四期)



海洋分子生物学
若輩者ではありますが、三水会のさらなる発展にむけてがんばります。

四、監事

大野 良樹 (増殖 一期)
水族病理学

伴 圭司 (増殖 一期)
水産増殖学
会員相互の良き情報源
と成りえる三水会にしま
しょう。



公平公正な監査に勤め
ます。

*代議員紹介

氏名 (学科・卒業期)
出身研究室

石井 雄 (増殖 一期) 環境生態学
石川 義行 (食品 一期) 水産衛生学
田村 治 (増殖 二期) 水族病理学
田代 茂年 (増殖 二期) 魚類生理学
西村 直也 (増殖 二期) 魚類生理学
水鳥 純雄 (増殖 三期) 水族病理学
佐藤 敏行 (食品 三期) 水産微生物学
中田 裕二 (食品 三期) 水産利用学
西村 哲典 (食品 三期) 水産生物化学
畠山 俊之 (増殖 四期) 水族病理学
稲沢 昌茂 (食品 五期) 水産食品化学

上田 俊朗 (増殖 五期)
水族病理学

奥村 誠一 (増殖 五期)
魚類生理学

佐藤伊豆男 (増殖 六期)
環境生態学

河村 尚之 (食品 六期)
水産生物化学

柳沢 明美 (増殖 七期)
水族病理学

小泉 康志 (食品 八期)
水産衛生学

中村 栄 (増殖 九期)
環境生態学

中村 義幸 (増殖 十期)
水族病理学

水石 博彦 (増殖 十期)
水族病理学

梶田 秀人 (増殖 十二期)
魚類生理学

富川 博行 (増殖 十三期)
水産微生物学

伊藤 哲文 (増殖 十五期)
水産微生物学

上村 竜一 (増殖 十六期)
基礎生産学

宮澤 康人 (食品 十九期)
水産利用学

川下 崇司 (食品 二期)
水産微生物学

杉浦 智和 (食品 二期)
水産微生物学

高橋 穂澄 (食品 二期)
水産微生物学

小堀 陽子 (増殖 二期)
環境生態学

『平成十五年度事業計画』

一、会報発行

同窓会の動向、学部の実況、各種の情報などを内容とした会報を平成15年9月と平成16年3月の二回発行する。

二、「水産学部だより」の配布

本学水産学部の発行する「水産学部だより29号」を増刷し、全会員に配布する。

三、会員の現状の把握

全学同窓会と連携し、不明会員の調査など名簿情報の正確性の向上に努める。

四、全学同窓会講演会の開催

各キャンパスを順次巡って開催している全学同窓会講演会を、全学同窓会と共催で三陸において開催する。

五、同期会等の助成

同期会 講座別OB会および地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

六、地区親睦会の開催

関西地区の会員を主な対象とした親睦会を大阪にて開催する。

七、懇談会の開催

大学・水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換会を行う。

八、学友会助成

クラブの活動費及び大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

九、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。

十、漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

平成14年度収支決算書

支出の部		収入の部	
科 目	予算額	科 目	決算額
1.事業費	3,200,000	2,094,343	
(1) 事務費	1,300,000	1,483,828	4,290,300
(2) 学費助成金	190,000	271,251	438,000
(3) 奨励金	500,000	548,112	50,000
(4) 図書費	200,000	90,000	—
(5) 大会費	200,000	231,480	1,910,237
(6) 学友会費	—	200,000	—
(7) 雑費	—	90,000	—
(8) 施設費	250,000	280,195	2,281
(9) 施設費	30,000	50,000	308,344
(10) 施設費	—	—	—
2.運営・管理費	2,940,000	2,331,552	
(1) 印刷・通信費	300,000	289,500	—
(2) 印刷費	130,000	542,896	—
(3) 印刷費	1,000,000	139,394	—
(4) 事務費	1,600,000	1,283,824	—
(5) 図書費	50,000	33,750	—
3.予備費	890,000	1,599,850	
(1) 大規模リニューアル費	—	157,500	—
(2) 水産学部	—	142,302	—
(3) 水産学部	890,000	1,299,048	—
合 計	7,030,000	6,995,495	7,030,000

平成15年度収支決算書

支出の部		収入の部	
科 目	予算額	科 目	予算額
1.事業費	4,550,000		
(1) 事務費	1,800,000	1. 助成金	4,260,000
(2) 学費助成金	250,000	2. 奨励金	455,300
(3) 学費助成金	1,500,000	3. 全学講演会開催補助	1,300,000
(4) 図書費	250,000	4. 前年度繰越金	1,249,838
(5) 大会費	200,000	5. 貯金利息	1,000
(6) 学費助成金	200,000	6. 雑収入	150,000
(7) 学費助成金	200,000		
(8) 学費助成金	200,000		
(9) 学費助成金	200,000		
(10) 学費助成金	200,000		
2.運営・管理費	2,502,000		
(1) 印刷・通信費	380,000		
(2) 印刷費	700,000		
(3) 印刷費	250,000		
(4) 事務費	1,122,000		
(5) 図書費	50,000		
3.予備費	264,138		
合 計	7,416,138	合 計	7,416,138

『三陸キャンパス緊急報告』

水産増殖学科

八期生

内藤 文隆

三水会会員のみなさん、2003年5月27日朝日新聞、翌28日河北新報に報道された記事をご覧になりましたでしょうか。なんと、三陸キャンパスが消える、さらに水産学部そのものの撤退も視野にあるというショッキングな記事が掲載されました。

真偽のほどは不明でしたが以前より、キャンパス移転の噂は時折流れていました。しかしながら、学部の解消を含めた大規模な改組については今回初めて表面化してきましたものです。水産学部は3年前に食品・増殖という二つの学科を一学科に統合する大規模な改組を行っていました。さらに今年初めのセンター入試を導入し、卒業資格の差別化を図るためにJABEEの審査を受ける最終準備も整えつつあるという話を聞いております。このような時期に、かかる大きな変換が起こったことの背景は何か。三水会としても非常にに関心のある所です。



想像の域を出ないものの、原因の一つには受験生の減少に歯止めがかからず、実質の応募者が減り続けていることがあるものと思われれます。三陸という立地が研究には適しているものの学生の誘致には不向きな点は以前より明白な事実でした。また、私立大学では水産学部という学部は北里だけにあってしまったという世の中の流れも影響があるようです。

しかし今回の報道に関しては、学部の先生方にも事前に具体的な工程表が提示されておらず、なおかつ、話し合いやどのような結論を考えているかについての発表もない状態です。学園の事情や経営について十分に斟酌したとしても、学内での話し合いまたは意思表示を示さないまま、報道へのリークという形で既成事実を作ろうという態度には私個人の意見ではありますが、卒業生として納得がいかない所です。たとえ、学部が消滅するとしても、学生、父兄、職員、卒業生に対する説明と決定事項がどのようなプロセスで決められたかをオープンにすることが民主的な大学としての責務だと思います。学園に対して聞きたいこと確かめたいことがあれば、みなさんの声をいただきたいと思います。

できれば、ことが決定してしまう前に、三水会として意見を出し、働きかけることで学園内の水産学部の主導権に少しでも貢献できれば（最後かもしれないですが）三水会の存在意義があると考えます。

『第26回北里大学同窓会 講演会開催のお知らせ』

北里大学同窓会では、同窓会活動の一環として、毎年各学部同窓会との共催で各界の著名人をお招きして講演会を開催いたしております。

本年度は、水産学部同窓会（三水会）との共催で、三陸キャンパスの「漁火祭」に併せて下記のとおり開催することといたしました。

記

【開催日時】

平成15年10月18日（土）
15:00～17:00

【開催場所】

北里大学水産学部（三陸校舎）
マリンホール大講義室

【講師・講題】

講師／水中写真家 中村 征夫氏
演題／「地球ものがたり海・空・山…このすばらしき仲間たち」

【参加費】

無料（全席自由）

【主催】

北里大学同窓会、
北里大学水産学部同窓会（三水会）

以上

『三陸へ、漁火祭と講演会 バスの旅』

1、実施日

平成15年10月17日（夜行）
18、19日（金、土、日）

2、コース

10月17日（22:00）新宿発

↓

10月18日（6:00）三陸着

10月19日（10:30）三陸発

↓

10月19日（18:00）新宿着

★18日の宿泊は管理棟
（P1写真の三陸研修所）

3、募集人数

42名（18才以上の方）

4、参加費

10,000円
（往復バス代金、宿泊費（朝食2食、夕食1食）
傷害保険料を含む）

5、〆切

10月10日までに三水会事務局までお申し込みください。
＊東北自動車道沿線にお住まいの方などお問い合わせ下さい。

0120-873-135

『水産学部の先生方との懇談会』

水産食品学科 二四期生
高坂 友和

水産学部の先生方との懇談会が
6月21日(土) 午後5時から本
学白金校舎本館2階の大会議室で
開催されました。

懇親会には、菅野信弘助教授(水産食品化学講座)、高橋明義助教授(海洋分子生物学講座)、天野勝文助教授(魚類生理学講座)、小池一彦講師(水産微生物学講座)の4名の先生方が出席されました。三水会からは会長以下11名の理事が出席致しました。



(白金本館、大会議室)

会長の挨拶および理事の自己紹介から始まり、JABEE(日本技術者認定機構、詳細は昨年の会報を参照してください。)、入試改革、クラブ活動、就職状況など、水産学部の現況について伺いました。

JABEEは取得することにより、水産学部の国際的な位置づけが高まることが理解できました。また、日本初の認定校を目指して、先生方が大変努力している様子が、実際の資料を示されながら熱心にお話下さることにより、良くわかりました。

入試改革では、大学入試センター試験(センター試験)や地方入試が昨年から導入されました。センター試験は三陸キャンパスでも行われ、釜石、大船渡、高田地区の高校生徒二百三十名が受験したそうです。試験に際し、山森先生の指揮の下、試験問題や答案用紙を管理するための金庫を用意したことや、試験は全国一斉に行われるため時間を正確にしなければならず、その責任者に事務の熊谷さんが当たったことを伺いました。センター試験で百名の受験生が合格し、六名が入学。地方入試は、大阪の難波予備校と相模原キャンパスで行われ、約百二十名が受験したそうです。



(会長より三水会の現況を説明)

に就職する傾向が強いとのこと、最近の時代を反映した状況といえるかもしれません。就職支援の方法について議論がありました。結局のところ学生諸君の一人一人の就職に対する意識が大きいとの結論に至りました。今後も三水会では、就職ガイダンスを中心に就職支援を進めていくとの会長からの話がありました。

先生方には、当初予定していた時間を越えるほど熱心に資料を交えながらお話くださり感謝いたします。

学生のクラブ活動について、理事会からの質問ではバトミントン部、潜水部、水泳部、軽音楽部、路の会などは活発に活動している反面、剣道、自動車部、美術部は現在休止状態などを聞いて、理事会一同、一喜一憂する場面もありました。

昨今の不況下、三水会としても特にきになる学生の就職率については、今年度は九十七パーセントで、就職先の内訳は食品関連会社に七、八割とのことでした。三割は進学や公務員を志願し、内一割以上が大学院に進学したそうです。食品関連会社の中でも、寿司業界



(右より菅野、高橋、小池、天野の各先生方)

『三水会北海道地区講演会・懇親会開催報告』

水産食品学科二六期卒
難波 将史

厳冬の中、去る2月15日に道内外から約三十名があつまり三水会北海道地区講演会及び親睦会が開催されました。

講演会では、昭和49年から平成5年まで水産学部にいらした北里大学名誉教授で、現・根室市水産研究所所長として第一線でご活躍されておられます橘高二郎氏より



(橘高先生による講演)

り「水は生命の源(エビ・カニ類の増養殖と水)」のテーマで、三陸時代のロブスター研究などの話題も交えながら約2時間のご講演をいただき、一同は大変興味深く聞き入っております。

続いて現、水産食品学科応用生物化学講座主任であり、学生課長の長久英三教授より「三陸の様子」をスライドで話していただきましたが、「校舎前の林道が二車線になった」「浦浜に24時間コンビニができた」ことを聞くと、会場からは驚きの声とため息が漏れておりました。



(前列右3人目より橘高先生、長久先生)

助手をされていて、今は千歳で獣医科医院を開業されている斉藤先生も参加くださいました。

その後会場を移し懇親会が行われ、同窓との出会いと懐かしい母校の思い出話に花が咲き、あつという間の2時間でした。

一次会の閉めは、やはり懇親会恒例となっている「水産放浪歌」。今回の口上は、岩手よりお越しいただいた四期の佐々木健一さんが20数年ぶりのエールだったとか。そのたどたどしさの中に、時の流れと、変わらぬ三陸魂が個々の心よみがえった事でしょう。



(右より5人目斉藤先生)

最後に、遠方から、講演、ご参加頂きました先生、本部の皆様、そして、広い北海道各地から参加いただきました同窓生の皆様、運営にご協力いただきました皆様に
お礼申し上げます。



(3期生の面々)

その後二次会、三次会と札幌の夜は更は、再会を約束してそれぞれの場に戻っていったのでした。

『十六期OB会報告』

もう十二年経つのでおじさんです

楠本 正毅

「オー久しぶり。」

「何してんの？」

「子供は何人いるの？」

みんな家庭があるからつてお昼の二時から同窓会？だけど、いきなり二十人ほどの懐かしい面々が集まれば、会場は質問と笑いと頷きの声で溢れかえる。

「お前、歳くったな。」

そう言うあなたも十分、お歳を召しています。なにせ卒業してから十二年も経つから、当たり前。時と共に忘れかけていた記憶が新しいものに更新されていく、そんな気持ちがあるのは自分だけかな？

とにかく、至る所で飲んで食べて、談笑して、ボケて突っ込んで、挙句の果てはお決まりの名刺交換！連絡先を教えあつてトドメの一本締め。もうこれだけ騒げば終わりだろ！

しかし、これだけで終わらないのは、皆さんも恒例なのか、店の外で一般の人の迷惑も顧みず、大集合！

「次、行く人はこっち側に集まって。」

幹事の一人、植村氏の声が響く。みんなぞろぞろと移動する。

「みんな行くのか。俺は明日早いんだ。後はよろしく頼んだぞ。」と、心の中でつぶやき、後ろ髪を引かれる思いでその場を立ち去った。

（二次会行きなかったな。）



『第三十回体育祭報告』

三年

本橋 英治

今年は五月十七日、十八日の二日間にわたり第30回体育祭が行われました。

前日に雨が降ったので天気的心

配があつたけど、当日は雨もやみ、予定どおり行う事が出来ました。

今年の種目は、グラウンドではソフトボール、体育館では初日に3ON3、二日目にドッチボールが行われました。今年も例年どおり各種目ごとに大いに盛り上がり、白熱した試合で参加者全員が楽しむ事が出来たと思います。我々実行委員会としての今年度のテーマは、体育祭を通して二年生の先輩達と知り合える機会を作ることでしたが、二年生の参加者が非常に少なかったことはとても残念ではありました。

今回優勝したチームは、すべて三年生主体のチームでした。学生生活の中では部活動以外ではあまり運動する機会が無いので、体育祭を通じて体を動かし、他の部活の人達と試合をしたり、同じチー



(3ON3)



(ソフトボール)

ムを組んだりする事で、学生同士の仲がより一層深まったと感じています。

今年も大きなハブニングもなく、参加者全員に楽しんでもらうことが出来、非常に嬉しく思います。また、今年度体育祭を無事に終えることが出来たのは、実行委員、参加者全員の協力と、そして三水会からは今回の体育祭に対して過分のご援助をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

来年以降も今の二年生を中心として、体育祭を盛り上げていってもらうつもりです。

今後ともご協力よろしくお願い致します。

見たい・知りたい・話したい



(14年度ポスター)

「三陸へ漁火祭と講演会、バスの旅」

参加者募集、詳しくはP4参照!



三陸に染まった人は誰だ!! コンテスト(2002)

■水産微生物研究室OB会のお知らせ

日時: 10月18日(土) pm6:00より

集合場所: 研究室前 (OB会会場は未定です。)

尚、今度三陸キャンパスに於いて北里大学同窓会及び三水会主催の講演会開催に向け、三陸へ夜行バスの運行を行うとの事です。是非この機会に三陸でのOB会を盛り上げましょう。野村先生もお待ちです。参加希望の方は下記アドレスまで連絡ください。

黒澤 明 kuroaki.610611@docomo.ne.jp TEL 090-4831-6773

kuroaki@livedoor.com

■『大阪発信』親睦会開催のお知らせ

平成16年2月、大阪にて親睦会を開催予定しております。

現在(3A)田代茂年、西村直也、(5A)上田俊朗、(6F)河村尚之4氏有志の方が企画立案中です。

大阪・京都・奈良・兵庫の各県在住の会員には開催日時をハガキにてご案内いたします。

尚、参加は自由です、他府県より参加希望の方は三水会事務局に問い合わせ下さい。

三陸より恩師を交え友と楽しい一時を過ごしましょう。

◆平成16年度奨励金について◆ 若手研究者研究奨励集金の募集

第15回 北里大学同窓会若手研究者研究奨励金の募集についてのお知らせ

- 1、応募資格者: 北里大学卒業後15年未満の研究者(個人)
- 2、奨励基額: 30万円
- 3、応募締切: 平成16年1月末日
- 4、応募方法: 応募要領と用紙は同窓会事務局にありますのでご請求下さい。

TEL.03-3446-7309

編集後記

今年の夏は、台風10号による全国的な被災で始まりましたが、その後も天候不順が続き、農業や「夏」の産業にとっては大きな打撃となっているようです。その反面、東京電力の電力不足についてはほとんど話題にも上らず事なきを得たようです。人間万事塞翁が馬、禍福はあざなえる縄のごとしと申します。私たち卒業生の日々の暮らしもそうですが、水産学部に行く末も波風があるようです。水産学部にとって台風一過のあと「美しく穏やかな三陸の海」という明るい未来を願うのは私だけでしょうか。会員のみなさまからのご意見、質問などをお待ちいたしております。ちなみに『三水会』の名称は昭和55年に松浦文雄先生(当時学部長)によって命名されました。

内藤 文隆